

プレスリリース

報道関係各位

7月6日(土) トークイベント「森・土・海は 食のゆりかご 命のゆりかご」開催

自然の農業、自然の循環を実践提唱する東北の3名人が トークイベントで初の競演

- 自然栽培で「奇跡のリンゴ」を実らせた木村 秋則(リンゴ農家)
- 自然放牧「幸せな牛からおいしい牛乳」の中洞 正(山地酪農家)
- 「森は海の恋人運動」「鉄は魔法つかい」の畠山 重篤(牡蠣養殖業)

株式会社リンク(本社:東京都港区、代表取締役社長:岡田元治)は、2013年7月6日(土)、東京農業大学・世田谷キャンパス 百周年記念講堂において、3人の著名な農水事業家によるトークイベント「森・土・海は 食のゆりかご 命のゆりかご」を開催いたします。

本イベントは、長年にわたって森・土・山・川・海の回復に取り組んできた3人の著名な農水事業者が、その経験・展望・具体策を語り、農林水産物の大消費地である都市部の生活者の気づきを広げて、農・林・水と食、ひいては国土の回復を訴えようと企画されたものです。

大地の回復や食の安全が叫ばれるようになってずいぶん長い時間がたちましたが、生命のゆりかごである「森・土・山・川・海」は、農薬や化学肥料の大量かつ継続的な使用や、遺伝子組み換え・国際価格競争・大規模化といった破壊要因にさらされ続けています。

環境の回復や安心の食を求めることは、「森・土・山・川・海の循環」を取り戻すことにほかなりません。

講演では、世界で初めて無農薬・無施肥によるリンゴの商業栽培を成し遂げたリンゴ農家・自然栽培提唱者の木村 秋則(きむら

あきのり:青森県弘前市)、北上の山中で「牛なり・山なり」の自然放牧酪農を実践する山地(やまち)酪農家の中洞 正(なかほら ただし:岩手県岩泉町)、豊かな海を取りもどすために上流の山で広葉樹の植林活動「森は海の恋人運動」を推進する畠山 重篤(はたけやま しげあつ:宮城県気仙沼市)の3人がそれぞれ話をし、その後、

ウェブサイト <http://mori-tsuchi-umi.jp/>

農業と自然に造詣の深い伊藤 聡子(いとう さとこ)キャスターを交えたディスカッションを予定しています。

青森県の木村、岩手県の中洞、宮城県の畠山と、東北三県において30年前後の間、自然の循環を視座にすえて独自の活動を続けてきた農水事業家が連携するイベントは初めてのことです。全国に多くのファンを持つ3人が登場することから、大きな注目を集めることと思われます。

開催概要

- 名称: 森・土・海は 食のゆりかご 命のゆりかご
- 開催日時: 2013年7月6日(土) 12:45~16:30 (受付開始 12:00)
- 会場: 東京農業大学 (世田谷キャンパス) 百周年記念講堂 (17号館)
東京都世田谷区桜丘 1-1-1
- 入場料: 3,000円 (前売のみ)
ローソンチケット【Lコード/39342】にて5月16日より発売します。
- 定員: 1,000人 ※定員になり次第、チケットの販売は終了となります。
- 主催: 株式会社リンク
- 後援: 実践総合農学会
- 内容: **■講演**
木村 秋則
中洞 正
畠山 重篤
- パネルディスカッション**
[コーディネーター] 伊藤 聡子(フリーキャスター)
[パネラー] 木村 秋則/中洞 正/畠山 重篤
- ウェブサイト: <http://mori-tsuchi-umi.jp/>

講演者プロフィール

木村 秋則(きむら あきのり) リンゴ農家

無農薬・無肥料でリンゴを栽培するリンゴ農家。リンゴは農薬で育てる、といわれるほど無農薬による栽培は難しいとされていることからこのリンゴは「奇跡のリンゴ」と呼ばれる。インターネットでの販売は数分で売り切れ、入手するのは極めて困難といわれる。

1949年 青森県中津軽部岩木町(現在の弘前市)生まれ。1968年 弘前実業高等学校商業科を卒業。集団就職で川崎市の電機メーカーに就職するも、1年半で退職し弘前に戻る。1972年 結婚。まもなく無農薬リンゴの栽培を始める。

11年に及ぶ無収穫・無収入の壮大な苦労は2006年、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で紹介され、大反響を呼んだ。現在、本人の提唱する自然栽培はリンゴだけでなく、稲作、果樹などの作物にも拡大。国内はもとより、世界各国の注目を集めている。2013年6月、全国東宝系で映画「奇跡のリンゴ」封切り予定。

著書:「奇跡のリンゴ」(2008年7月・幻冬舎)、「リンゴが教えてくれたこと」(2009年5月・日本経済新聞社)、「木村秋則と自然栽培の世界」(2010年6月・日本経済新聞社)ほか

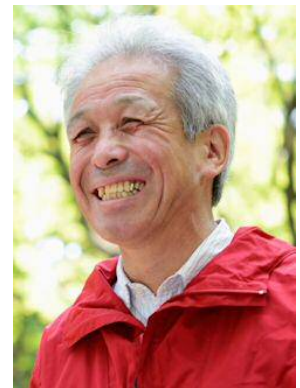


中洞 正(なかほら ただし) 山地酪農家

1952年、岩手県宮古市生まれ。東京農大在学中に植物生態学の猶原恭爾博士の指導を受け、1984年から岩手県岩泉町で野シバ飼育・完全自然放牧をコンセプトとする山地(やまち)酪農場を運営。農薬や肥料とは無縁の自然循環型の酪農を実践し、山地酪農および放牧牛による山林管理手法の普及をめざしている。乳製品製造ミニプラントの設計・建設も手掛け、商品開発から販売までのノウハウを有する。

東北アントレプレナー大賞(2003年)・東京農業大学経営者大賞(2005年)・アントレプレナー オブ ジャパン「セミファイナリスト」(2005年)、受賞。2006年、東京農業大学客員教授に就任。中洞牧場牧場長。

著書:「日本とEUの有機畜産」(2004年4月・農文協・共著)、「幸せな牛からおいしい牛乳」(2007年3月・コモンズ)、「黒い牛乳」(2009年7月・幻冬舎)ほか



島山 重篤(はたけやま しげあつ) NPO法人 森は海の恋人 理事長

1943年中国上海生まれ。県立気仙沼水産高校を卒業後、家業の牡蠣養殖業を継ぐ。海の環境を守るには、海に注ぐ川、さらにその上流の森を守ることに気が付き、漁師仲間と共に「牡蠣の森を慕う会」を結成(2009年、NPO法人 森は海の恋人を設立)。1989年より、気仙沼に注ぐ大川上流部で漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人運動」を行っている。この活動は小・中学校の教科書にも紹介され、同時に環境教育の一助として全国から子どもたちを養殖場に受け入れている。2011年3月11日の東日本大震災で牡蠣養殖場の施設等すべてを失うが、コンクリートの防潮堤に頼らず震災後の自然環境を活かした地域づくりを進めている。

朝日森林文化賞(1994年)・緑化推進功労者内閣総理大臣表彰(2003年)・宮沢賢治イーハトーブ賞(2004年)・国連森林フォーラム(UNFF)フォレストヒーローズ、受賞。

著書:「森は海の恋人」(1994年10月・北斗出版)、「漁師が山に木を植える理由」(1999年4月・文藝春秋・松永勝彦共著)、「鉄は魔法つかい」(2011年6月・小学館)ほか



コーディネーター プロフィール

伊藤 聡子(いとう さとこ)

大学在学中に関口宏のサンデーモーニング(TBS 系)でデビュー。ベストタイム(TBS 系)・スーパーモーニング(テレビ朝日系)・アクセス(TBS ラジオ)などの番組のキャスターとして、活躍。2002年に一度仕事から離れ、NYへ留学しアメリカ社会学を学ぶ。帰国後もテレビ・ラジオでキャスターを務めるほか、JICAを通してカンボジアやネパール視察をするなど、国際貢献への関心を高く持ち、活動している。

原子力・エネルギー問題を日本の未来の大きなテーマと考え、国内外の原子力施設の取材を続けており、国の委員を務めている。途上国や日本の地方・エネルギー関連施設といった地域などの自立に、ビジネスの視点が不可欠と捉え、MBA(経営管理修士)を取得。

『地域経済の活性化が日本の元気を取り戻す鍵』を持論に持ち、日本の地域おこしに力を注いでいる。2010年に、事業創造大学院大学(新潟県)客員教授就任。

現在はキャスターとしてだけでなく、コメンテーターとして、ひるおび!(TBS 系)等情報・報道番組に出演中。地域に根ざした独自の取り組みで活躍する人びとやビジネス事例を取材し、地域をイキイキと輝かせるヒントを、メディアや講演を通して伝えている。

日本を取り巻くさまざまな課題である震災、円高、エネルギー不足、財政難、少子高齢化、産業の空洞化等をテーマとし、自身の取材経験に基づいた事例を上げている。



本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社 リンク 担当: 岡田・石飛(いしとび)

東京都港区赤坂7丁目3番37号 カナダ大使館ビル1階 〒107-0052

TEL: 050-2018-0110 / FAX: 050-2018-0178

Eメール: mori-tsuchi-umi@link.co.jp